

アンケート調査結果報告書

概要版

平成 31 年 3 月

岐阜県瑞穂市

目 次

1. 調査概要.....	3
(1) 1 調査の目的.....	3
(2) 2 調査対象者等	3
(3) 3 回収状況	3
2. 幼児教育・保育の状況.....	4
(1) 保護者の就労状況	4
(2) 幼児教育・保育事業の状況	7
(3) 休日や不定期での幼児教育・保育事業、地域子ども子育て支援事業の利用	9
(4) 保育料無償化について	14
3. 放課後の子どもの過ごし方	15
(1) 放課後児童クラブについて	15
(2) 民営化について	19
4. 地域子ども子育て支援事業について.....	21
(1) 祖父母からの支援について	21
(2) 地域子ども子育て支援事業	22

1. 調査概要

(1) 1 調査の目的

本調査は、瑞穂市の子ども・子育てに関するニーズや子育て支援サービスの利用状況、利用意向、子育て世代の生活実態や要望等を市民の方に伺い、第2期子ども・子育て支援事業計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施した。

(2) 2 調査対象者等

調査対象者：市内在住の就学前児童（0～5歳）の保護者 1,400人

住民基本台帳より無作為抽出（平成30年12月1日現在）

市内在住の小学生児童（小学1年生～小学6年生）の保護者 1,400人

住民基本台帳より無作為抽出（平成30年12月1日現在）

調査方法：郵送による配付、回収

調査期間：平成31年2月4日（月）～平成31年2月18日（月）

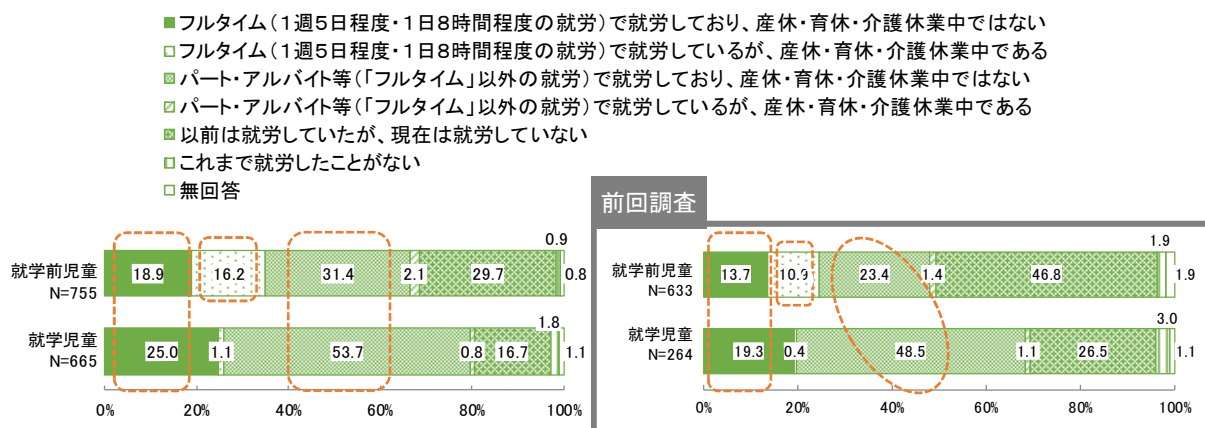
(3) 3 回収状況

対象	回収数	有効回収数	回収率	有効回収率
就学前児童の保護者	758	758	54.1%	54.1%
小学生児童の保護者	671	671	47.9%	47.9%

2. 幼児教育・保育の状況

(1) 保護者の就労状況

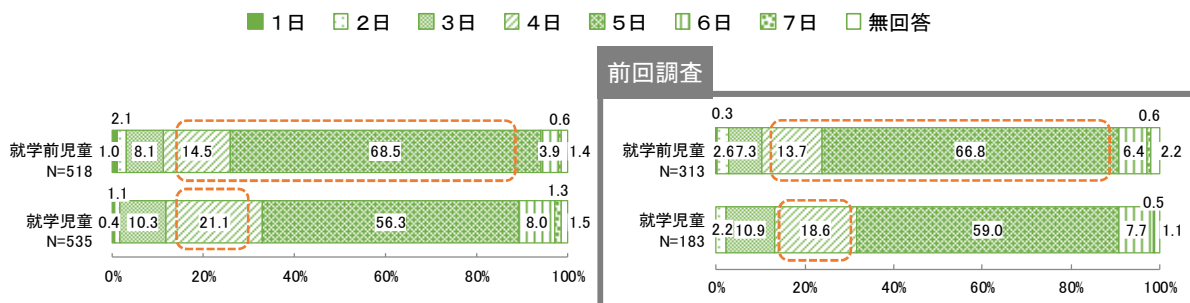
■ 母親の就労状況〔就学前児童：問 11(1)、就学児童：問 11(1) 〕



- 母親の就労状況について前回調査と比べると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」方の割合が就学前児童・就学児童ともに多くなっています。
- 就学前児童については、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」の割合が前回調査より多くなっています。

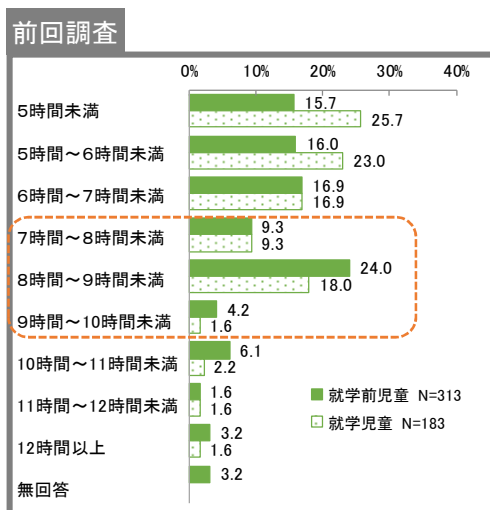
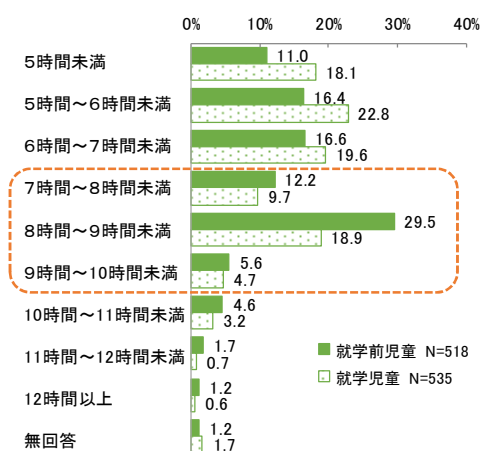
■ 母親の就労日数・時間〔就学前児童：問 11(1)-1、就学児童：問 11(1)-1〕

【1週当たりの就労日数】



- 就学前児童では、「4～5日」の割合が前回調査よりも多くなっています。
- 就学児童では、「4日」の割合が前回調査よりも多くなっています。

【1日当たりの就労時間】

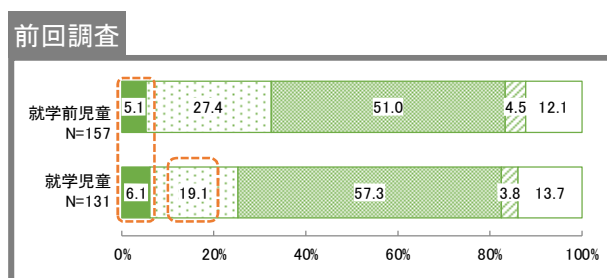
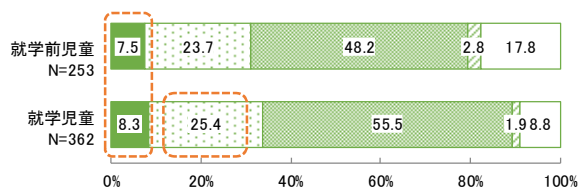


- 就労時間については、「7時間～10時間未満」の割合が多くなっており、前回調査より就労時間が長くなっていることが分かります。

■ パート・アルバイト等で働いている方のフルタイムへの転換希望

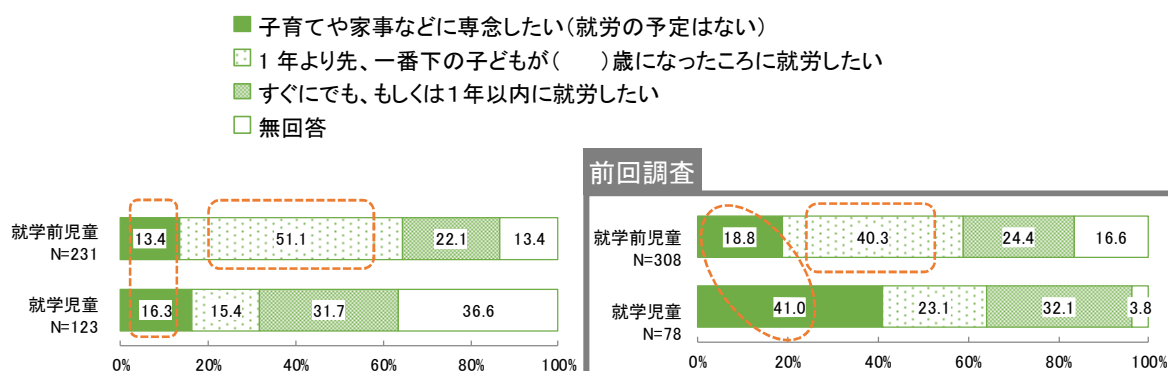
〔就学前児童：問 12(1)、就学児童：問 12(1)〕

- フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある
- ▨ フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- ▨ パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望
- ▨ パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)をやめて子育てや家事に専念したい
- 無回答



- 「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」方の割合は就学前児童・就学児童ともに前回調査より多くなっています。
- 就学児童については、「フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みがない」方の割合も前回調査より多くなっており、フルタイムの就労を希望する方が多くなっています。

■ 働いていない方の今後の就労意向〔就学前児童：問 13(1)、就学児童：問 13(1)〕



- 働いていない方の今後の就労意向については、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」方の割合が就学前児童・就学児童ともに前回調査より少なくなっています。
- 就学前児童については、「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」方の割合が多くなっています。

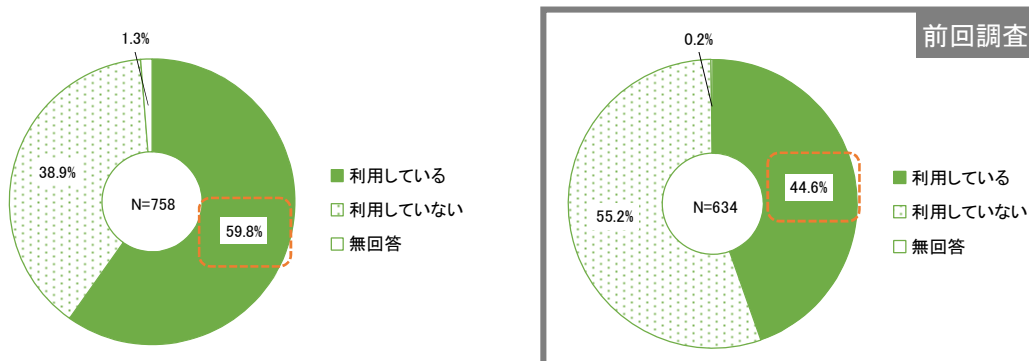
- ✓ 母親の就労状況は、フルタイムやパートで働く方が増えており、就労日数や時間も増えています。
- ✓ 就学児童を持つ母親について、フルタイムで働くことを希望する方が増えており、就学前児童を持つ母親については、子どもの成長に応じて就労したいと考える方が増えています。



母親の就労率は今後も高くなることが予測され、現在の保護者の就労状況や、今後の就労意向に対応できるよう、各年齢に応じた受け皿を確保する必要があります。

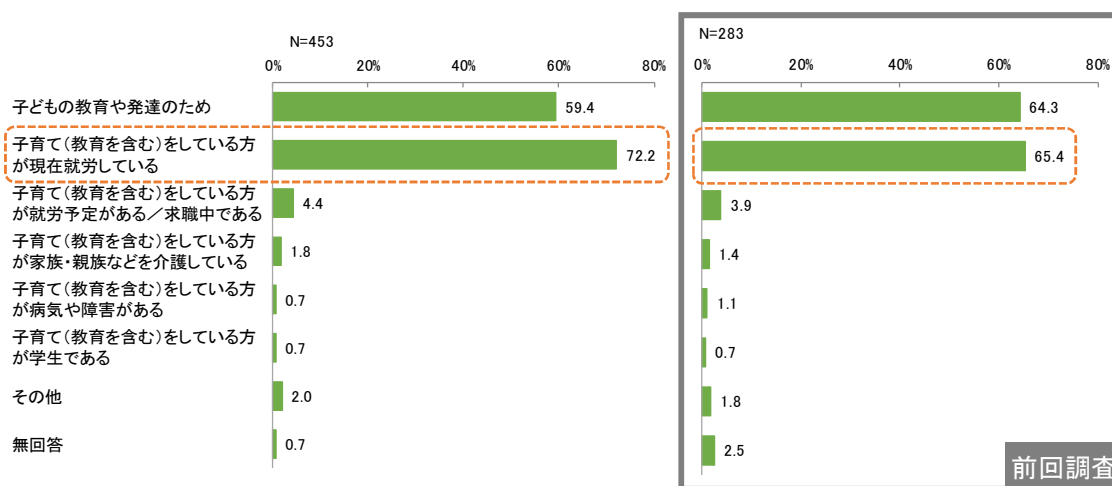
(2) 幼児教育・保育事業の状況

■ 幼児教育・保育事業の利用状況〔就学前児童：問14〕



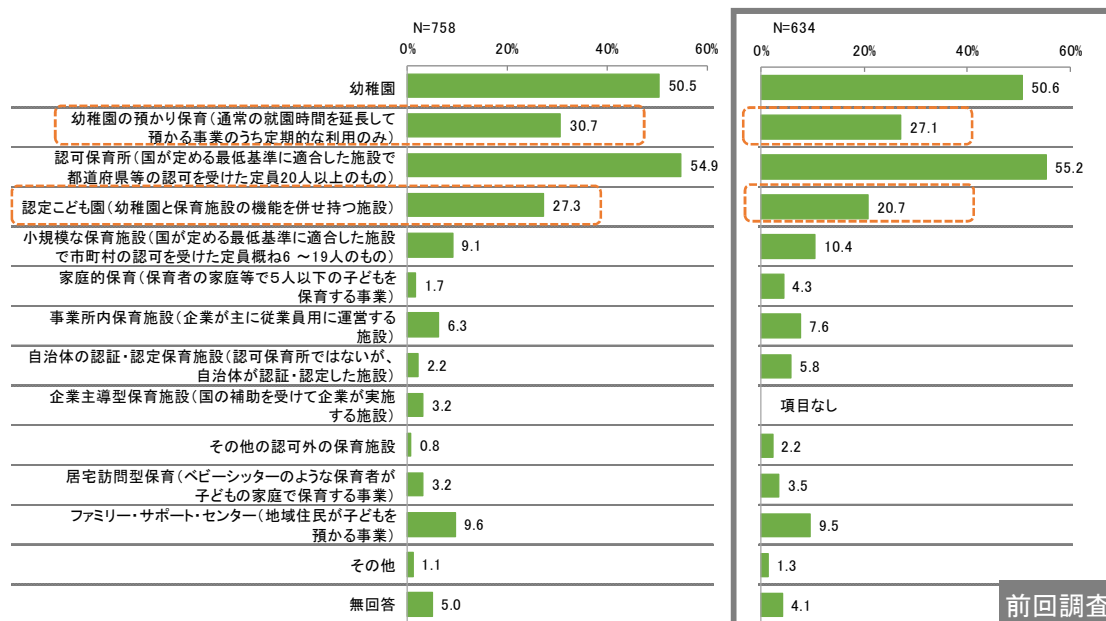
- 幼児教育・保育事業を「利用している」方の割合が前回調査より多くなっています。

■ 幼児教育・保育事業利用の理由〔就学前児童：問14-3〕



- 幼児教育・保育事業利用の理由については、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」の割合が前回調査より多くなっています。

■ 平日に利用したい事業について〔就学前児童：問15〕



- ▶ 平日に利用したい事業については、「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」の割合が前回調査より多くなっています。

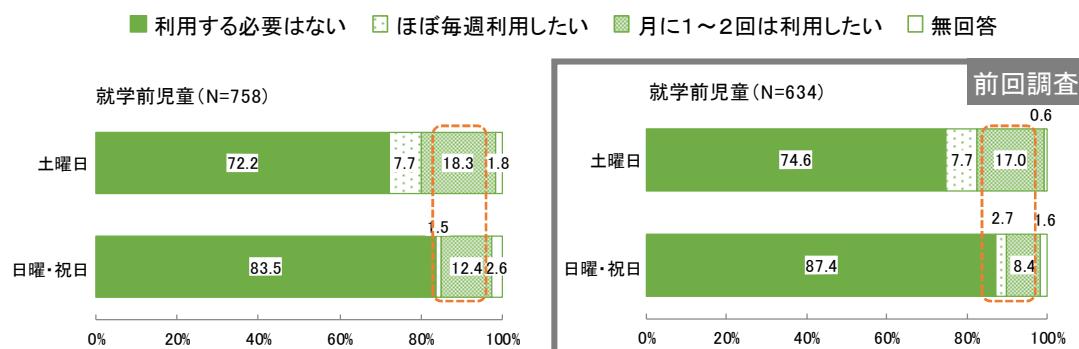
✓ 子育てをしている方が現在就労しているという理由で、幼児教育・保育事業の利用数が増加しています。

↓

保護者が安心して働けるように、ニーズに合った幼児教育・保育事業を提供していく必要があります。

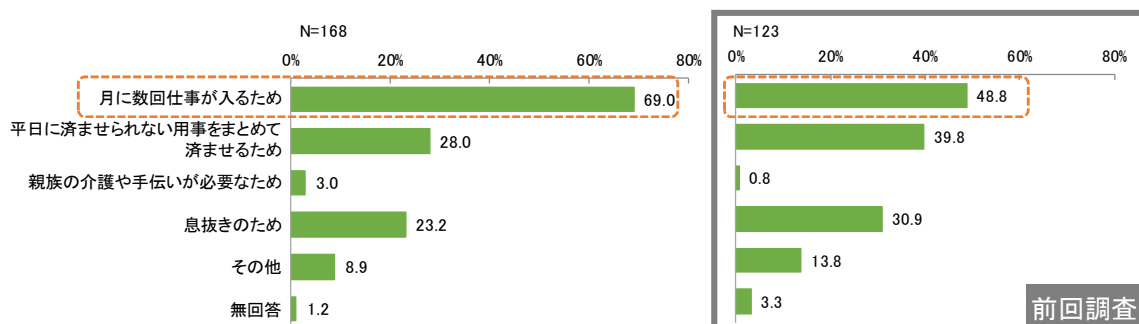
(3) 休日や不定期での幼児教育・保育事業、地域子ども子育て支援事業の利用

■ 休日の教育・保育事業の利用希望〔就学前児童：問18〕



- 休日の教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要がない」が最も高くなっているが、「月に1～2回は利用したい」の割合が前回調査より多くなっています。

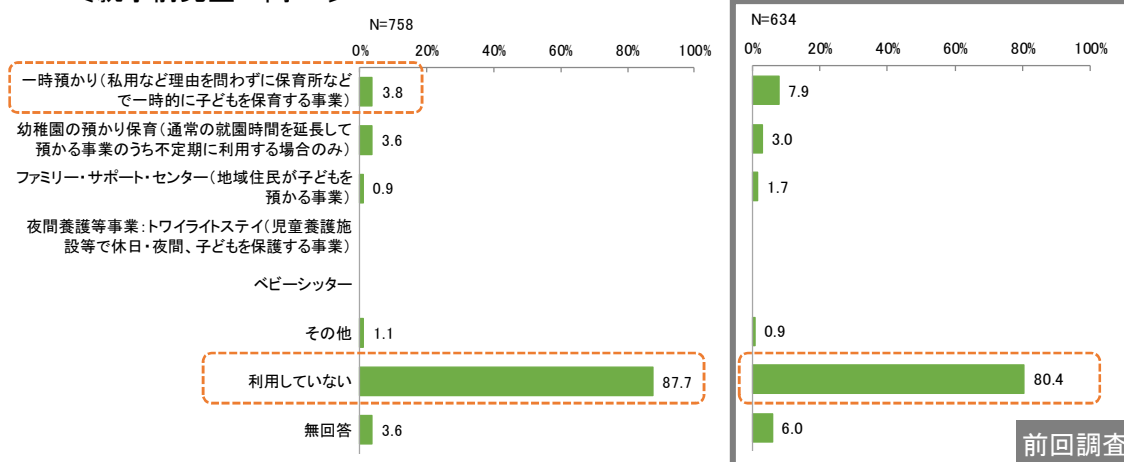
■ 休日にたまに利用したい理由〔就学前児童：問18〕



- 休日にたまに利用したい理由については、「月に数回仕事が入るため」の割合が前回調査より多くなっています。

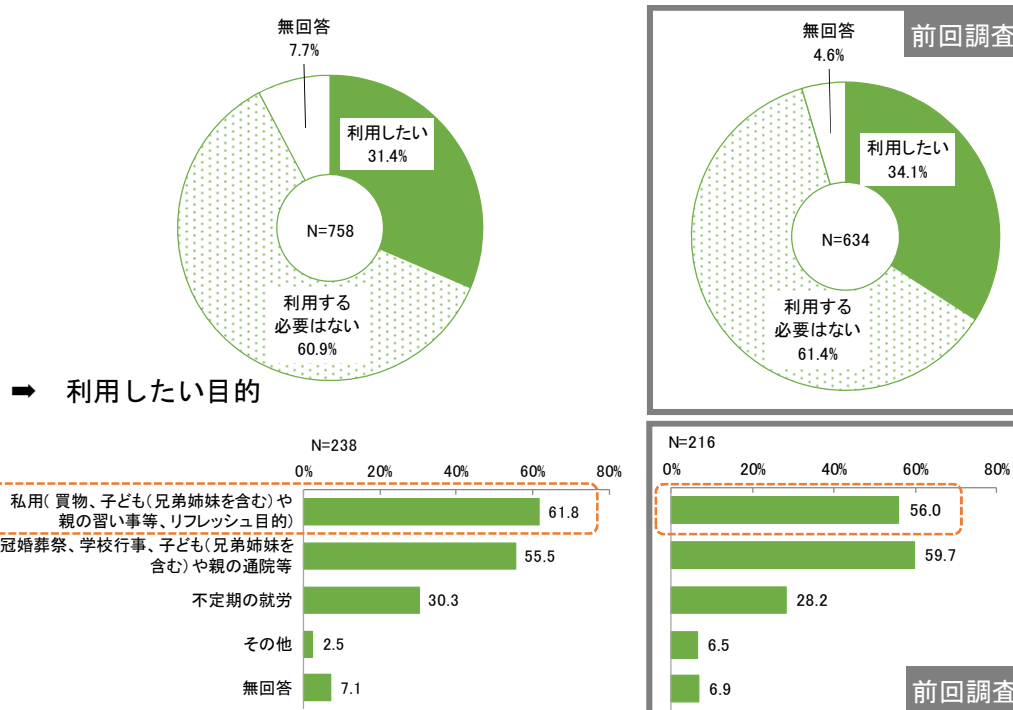
■ 保護者の私用、通院、不定期の仕事等で利用している子育て支援事業

〔就学前児童：問 21〕



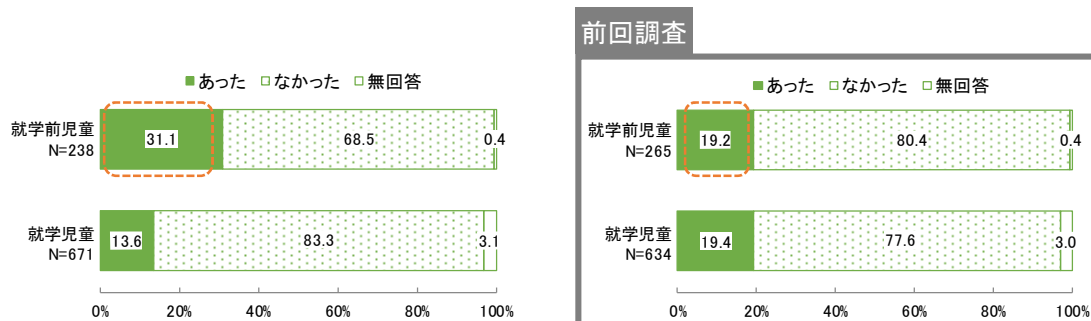
- ▶ 不定期で利用する子育て支援事業については、「一時預かり」での利用が前回調査より少なくなっており、「利用していない」の割合が多くなっています。

■ 保護者の私用、通院、不定期の仕事等の目的で利用したいか〔就学前児童：問 22〕



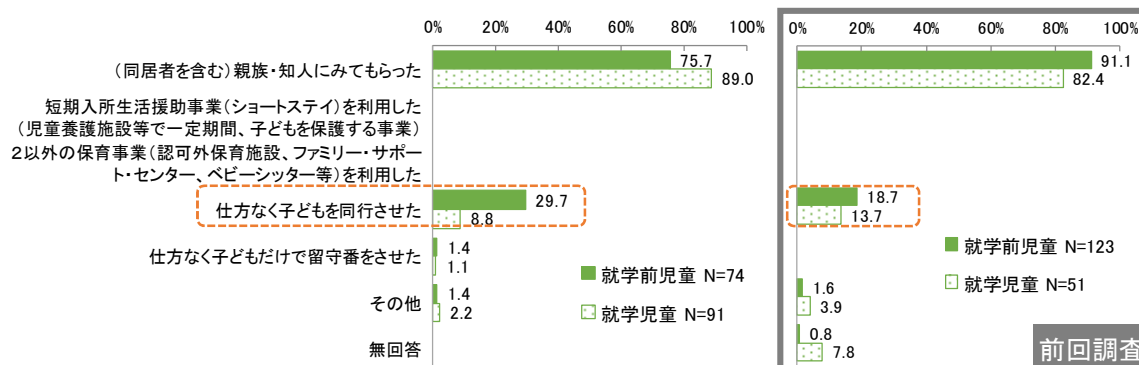
- ▶ 利用目的については、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的)」の割合が前回調査より多くなっています。

- この1年で子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったこと（預け先が見つからなかった場合も含む）〔就学前児童：問23、就学児童：問22〕



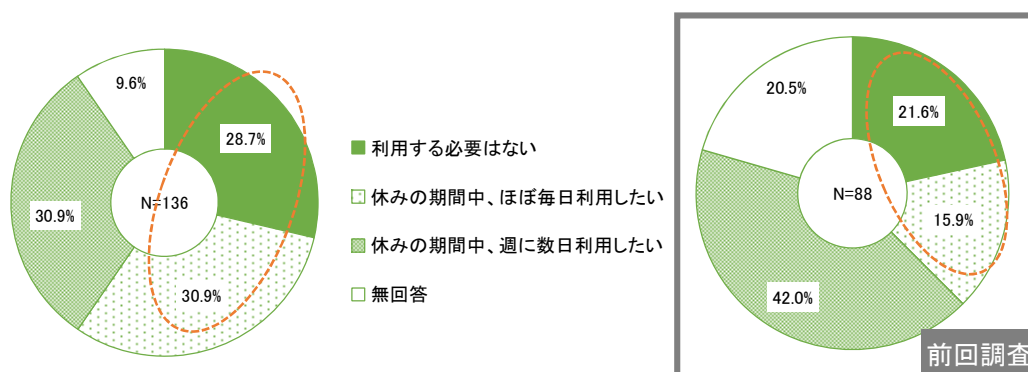
- 子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったことについては、就学前児童では「あった」の割合が前回調査より多くなっています。

➡ あった場合、その対処方法



- 対処方法については、就学前児童では「仕方なく子どもを同行させた」の割合が前回調査より多くなっています。

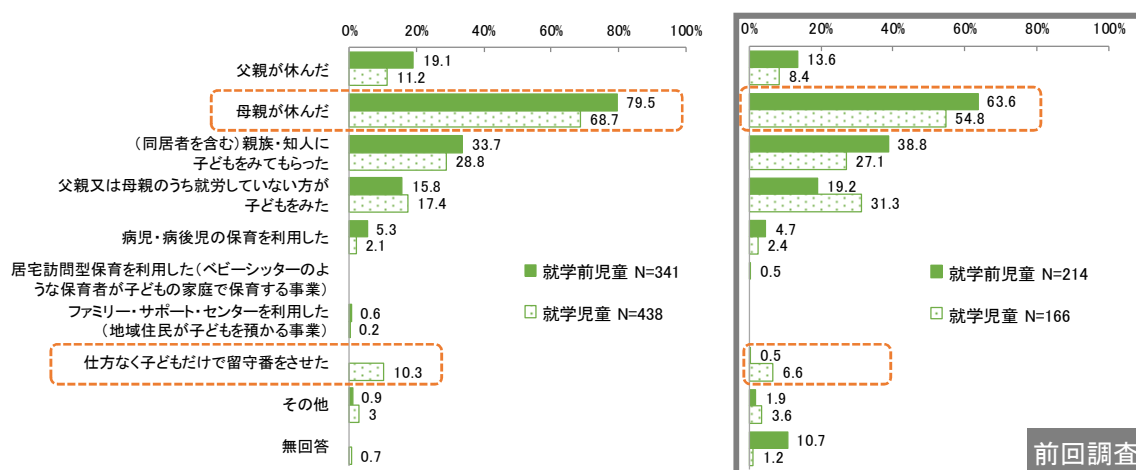
■ 長期休暇の幼稚園利用（幼稚園を利用している方のみ）〔就学前児童：問 19〕



- 長期休暇の幼稚園利用については、「利用する必要はない」の割合が前回調査より多くなっており、一方で「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合も多くなっています。

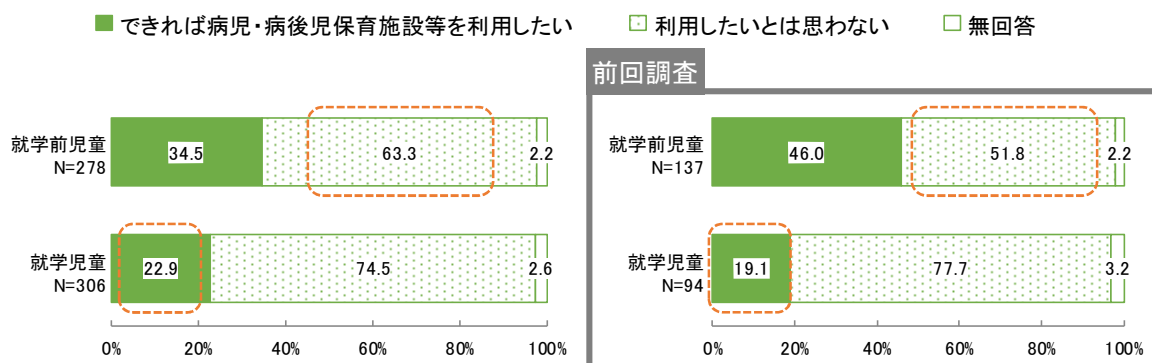
✓ 休日や不定期での幼児教育・保育事業、地域子ども子育て支援事業を希望する方は一定数おり、安心して預けられるよう保護者のニーズにあった受け皿を整えていく必要があります。

■ 病気やけがで休まなければならなかった時の対処法〔就学前児童：問 20-1、就学児童：問 20-1〕



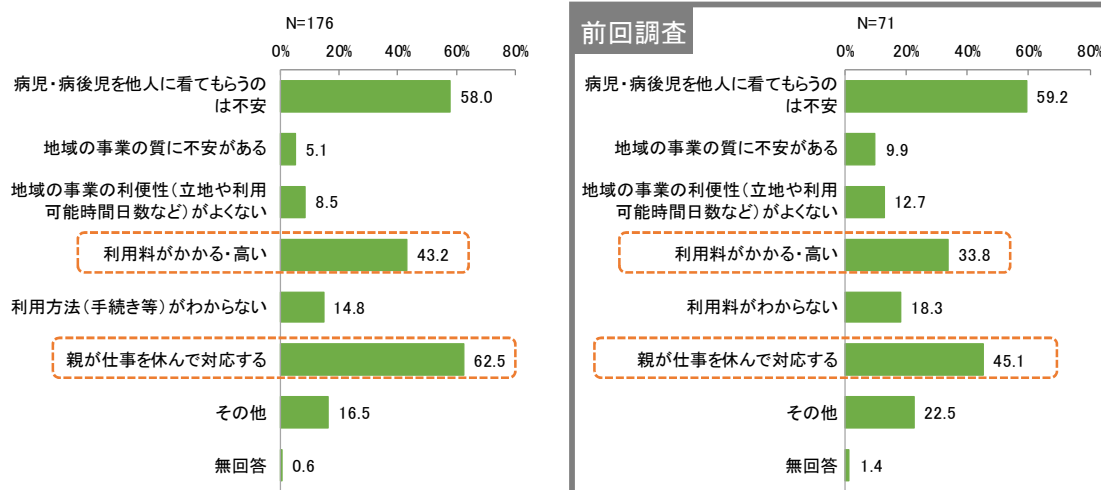
- 病気やけがで休まなければならなかった時の対処法については、「母親が休んだ」の割合が就学前児童・就学児童ともに前回調査より多くなっています。
- 就学児童では、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」の割合が前回調査より多くなっています。

■ 病児・病後児保育の利用意向（父親・母親が休んだ人のみ）〔就学前児童：問 20-2、
就学児童：問 20-2〕



- 病児・病後児保育の利用意向（父親・母親が休んだ人のみ）については、就学前児童では「利用したいとは思わない」の割合が前回調査より多くなっています。
- 就学児童では、「できれば利用したい」の割合が前回調査に比べ多くなっているものの、「利用したいとは思わない」の割合が7割以上で多くなっています。

■ 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由〔就学前児童：問 20-4〕

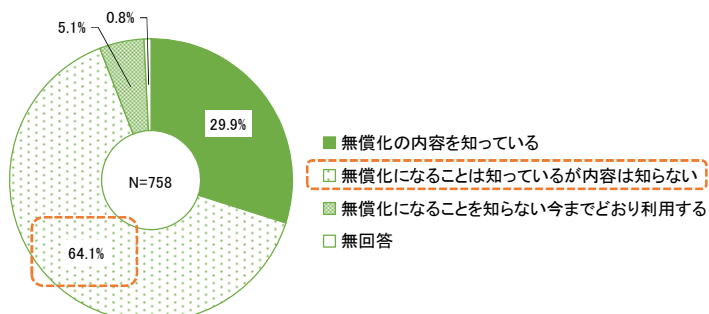


- 病児・病後児保育を利用したいと思わない理由については、「利用料がかかる・高い」「親が仕事を休んで対応する」の割合が前回調査に比べ多くなっています。

✓ 利用料がかかる・高いことや、他人に看てもらうのは不安と考えている方が多いことから、利用料金の検討や、病児・病後児保育の安全性を情報発信する必要があります。

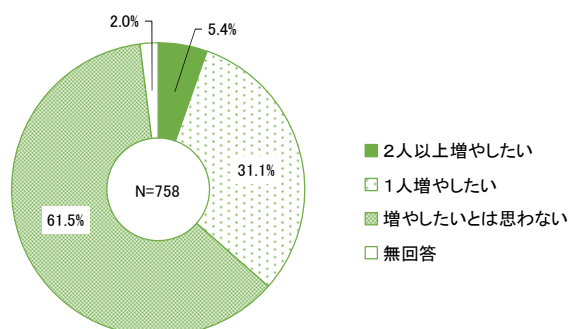
(4) 保育料無償化について

■ 保育料無償化の認知度〔就学前児童：問 28〕



- 保育料無償化の認知について、「無償化になることは知っているが内容は知らない」が64.1%で最も多く、次に「無償化の内容を知っている」が29.9%、「無償化になることを知らない今までどおり利用する」が5.1%となっています。

■ 無償化後の子ども人数〔就学前児童：問 29〕



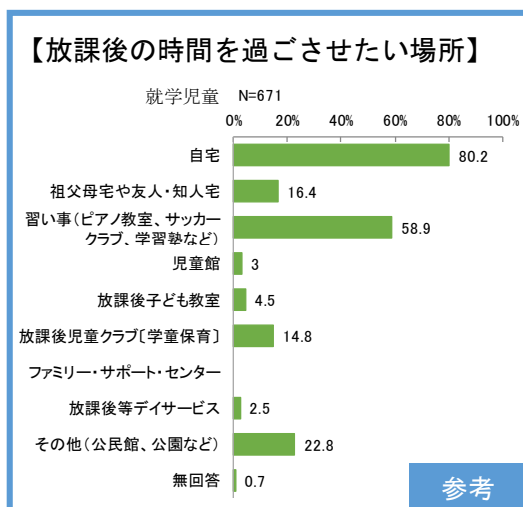
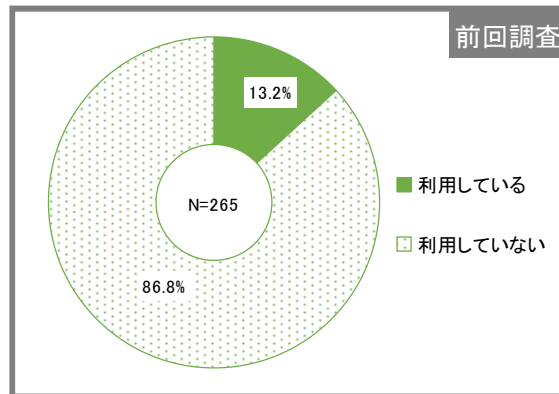
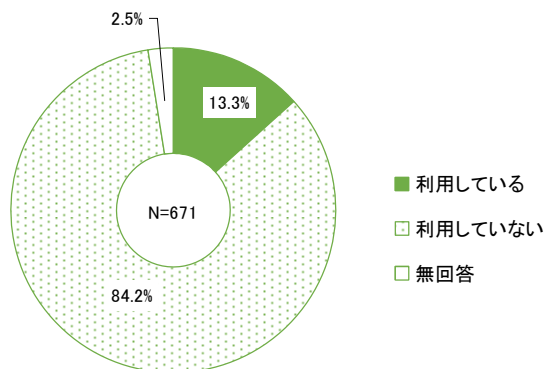
- 無償化の実現により子どもの人数を増やすかは、「増やしたいとは思わない」が61.5%で最も多く、次に「1人増やしたい」が31.1%、「2人以上増やしたい」が5.4%となっています。

- ✓ 無償化は知っているが内容を知らないという方が半数以上いるので、情報発信を進めていく必要があります。
- ✓ 無償化の影響により、幼児教育・保育事業のニーズが変わってくることを把握する必要があります。

3. 放課後の子どもの過ごし方

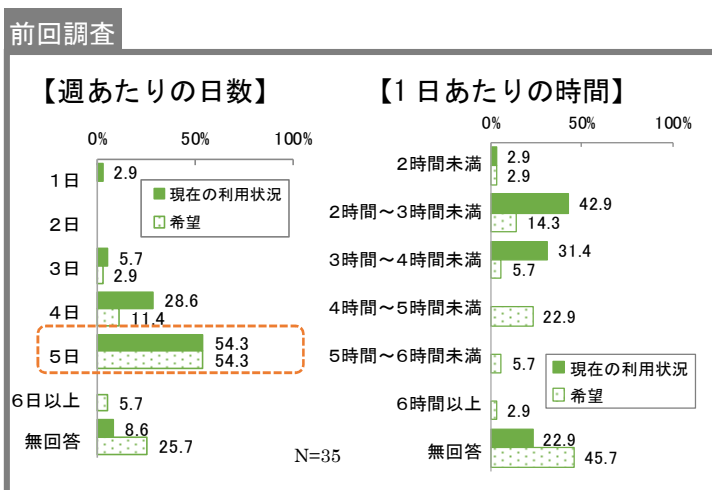
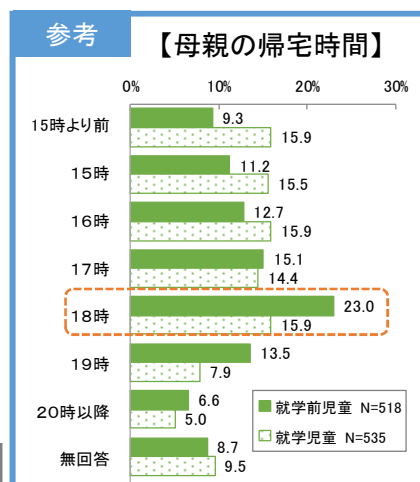
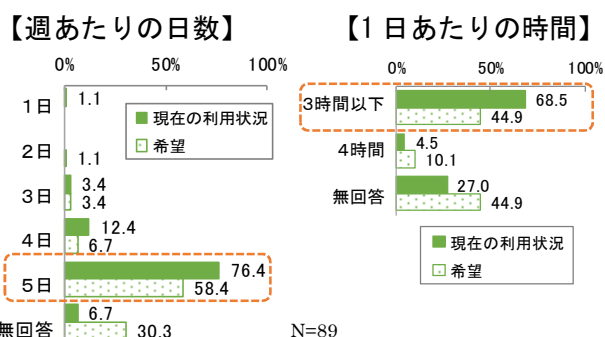
(1) 放課後児童クラブについて

■ 放課後児童クラブの利用状況〔就学児童：問 15〕



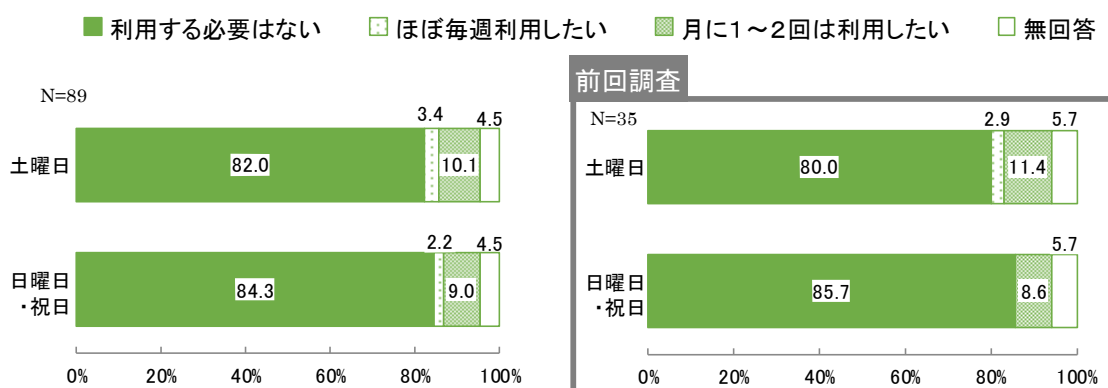
➤ 放課後児童クラブの利用状況については、「利用している」が 13.3%となっており、前回調査と同様の傾向となっています。

■ 平日の放課後児童クラブの現在の利用日数・時間と、希望の日数・時間（利用者のみ）
〔就学児童：問 16(1)(2)〕



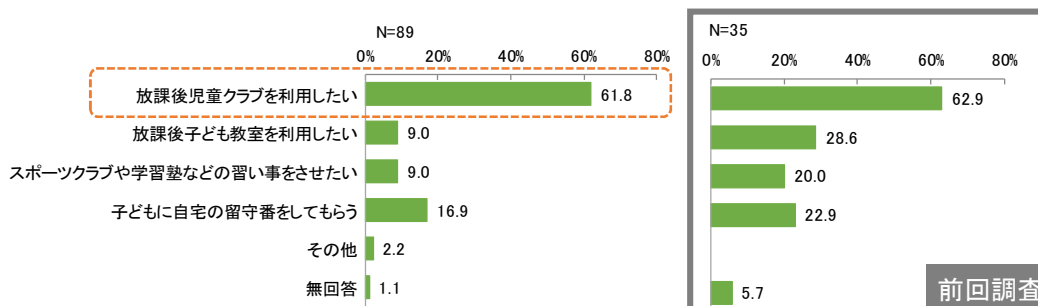
- 平日の放課後児童クラブの現在の利用日数については、「5日」の割合が前回調査より多くなっています。
- 1日あたりの利用時間については、「3時間以下」が多くなっています。
- 母親の帰宅時間を見ると、18時が最も多く、就学前児童では23.0%、就学児童では15.9%となっており、小学生になると帰宅時間が早くなっていることが分かります。

■ 土曜日、日曜日、祝日の放課後児童クラブの利用希望（利用者のみ）〔就学児童：問 16-1〕



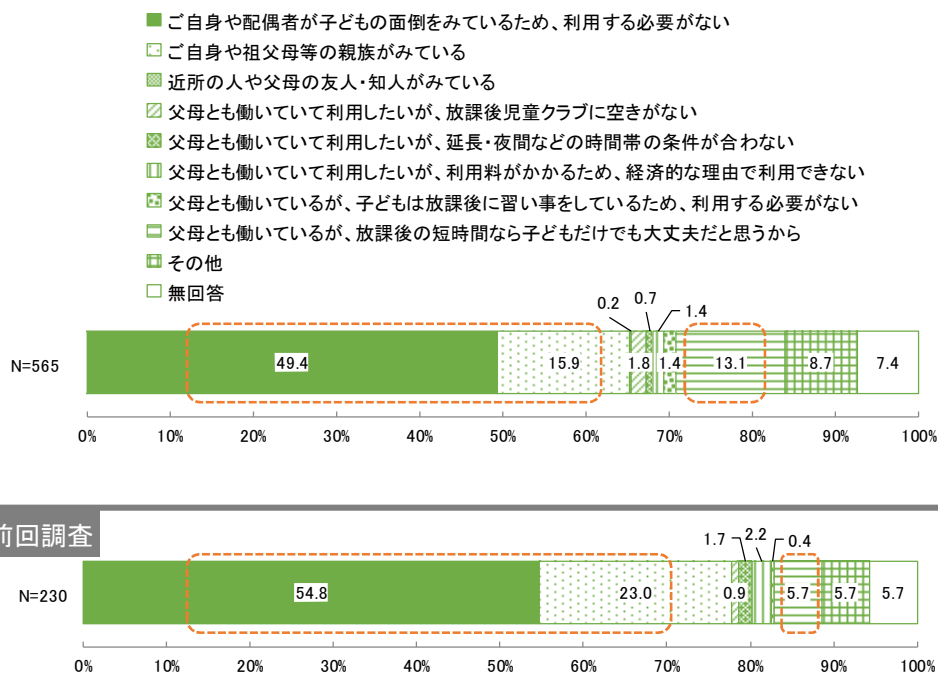
- 土曜日、日曜日、祝日の放課後児童クラブの利用希望については、「利用する必要はない」が約8割となっており、前回調査と同様の傾向となっています。

■ 小学4年生以降の放課後の過ごし方についての希望（利用者のみ）〔就学児童：問 16-2〕



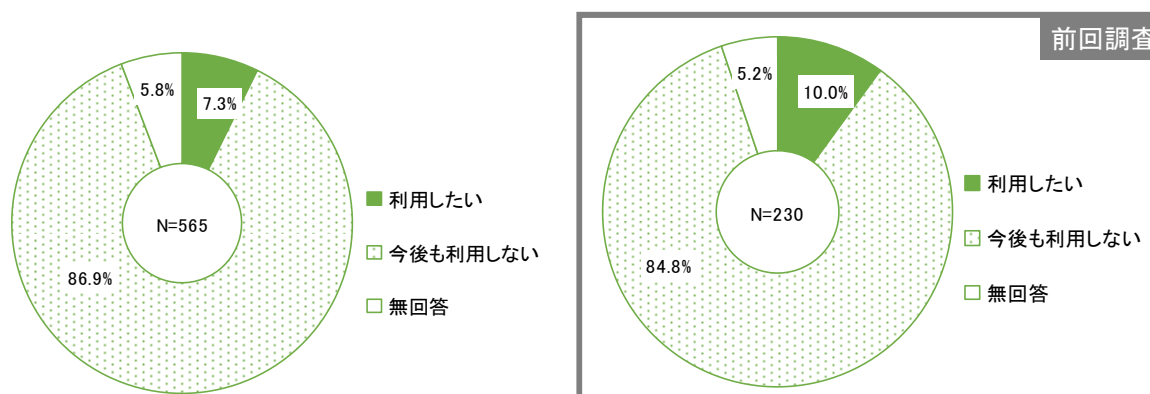
- 小学4年生以降の放課後の過ごし方についての希望については、「放課後児童クラブを利用したい」が6割以上で、4年生以上になっても変わらず利用したいと思う方が多くなっています。

■ 放課後児童クラブを利用していない理由〔就学児童：問17〕



- 放課後児童クラブを利用していない理由について、「父母とも働いているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」の割合が前回調査より多くなっています。
- 「両親や祖父母等の親族がみているため利用する必要がない」の割合は前回調査に比べ少なくなっています。

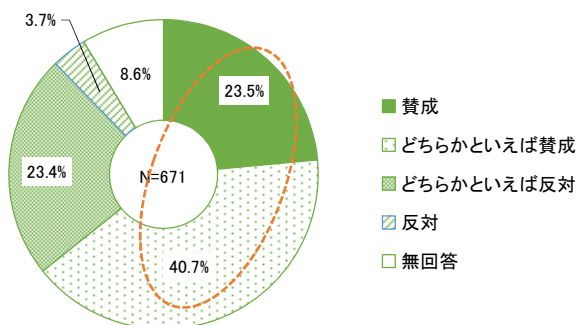
■ 放課後児童クラブの利用意向〔就学児童：問17-1〕



- 放課後児童クラブの利用意向については、「今後も利用しない」の割合が8割以上を占め、前回調査と同様の傾向となっています。

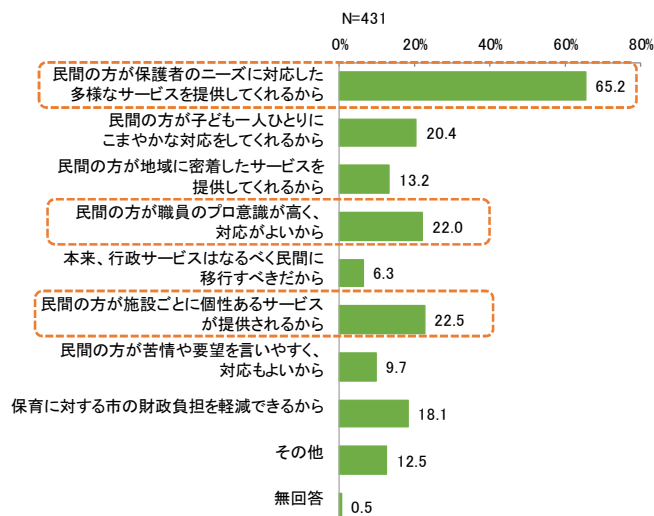
(2) 民営化について

■ 放課後児童クラブの民営化についての賛否〔就学児童：問 19〕



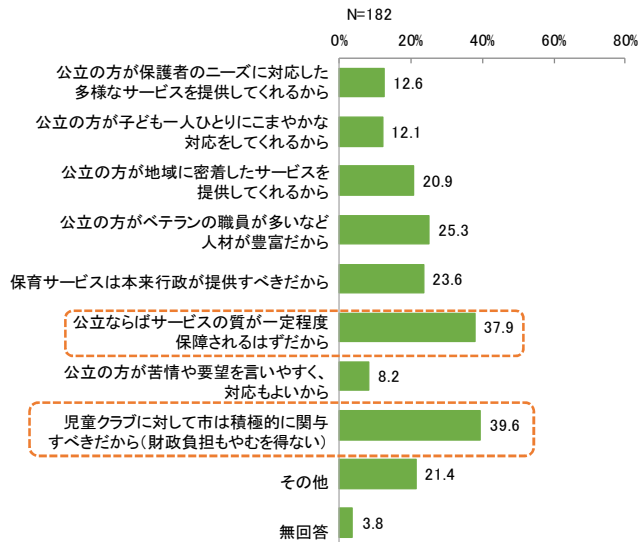
- 放課後児童クラブの民営化については、「どちらかといえば賛成」が40.7%で最も多く、「賛成」(23.5%)をあわせた“賛成”は64.2%、「反対」(3.7%)と「どちらかといえば反対」(23.4%)をあわせた“反対”は27.1%となっています。

■ 賛成を選んだ理由〔就学児童：問 19-1〕



- “賛成”の理由は、「民間の方が保護者のニーズに対応した多様なサービスを提供してくれるから」が65.2%で最も多く、次に「民間の方が施設ごとに個性あるサービスが提供されるから」(22.5%)、「民間の方が職員のプロ意識が高く、対応がよいから」(22.0%)、「民間の方が子ども一人ひとりにこまやかな対応をしてくれるから」(20.4%)の順となっています。

■ 反対を選んだ理由〔就学児童：問 19-2〕



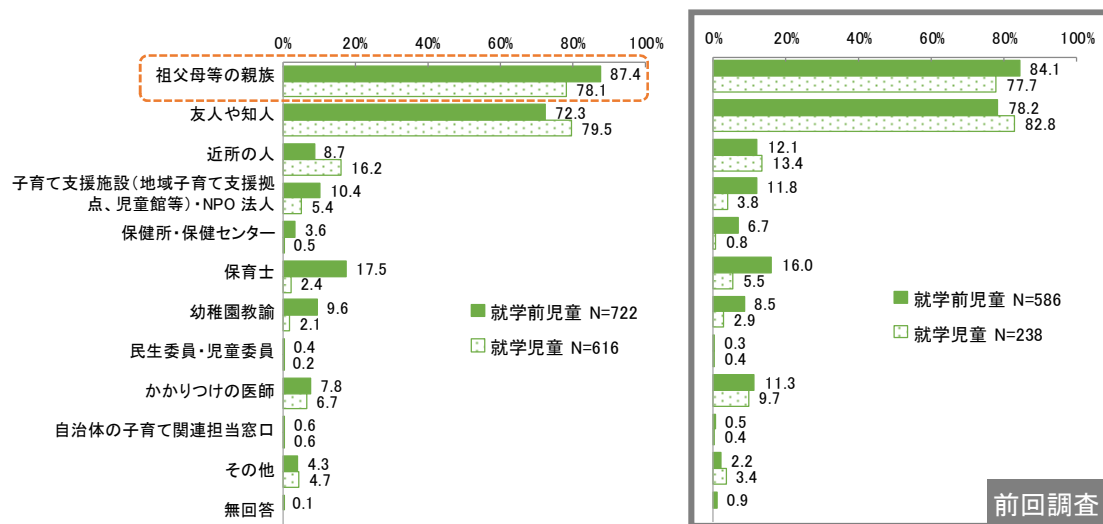
➤ “反対”の理由は、「児童クラブに対して市は積極的に関与すべきだから（財政負担もやむを得ない）」が39.6%で最も多く、次に「公立ならばサービスの質が一定程度保障されるはずだから」（37.9%）、「公立の方がベテランの職員が多いなど人材が豊富だから」（25.3%）、「保育サービスは本来行政が提供すべきだから」（23.6%）の順となっています。

- ✓ 放課後児童クラブを週に5日利用している方が7割を超え、4年生以上になっても利用したいと考える方が6割以上となっていることから、高学年になっても続けて利用できるように受け皿を確保する必要があります。
- ✓ 民営化に賛成の割合が6割以上あることから、放課後児童クラブの民営化についても検討する必要があります。

4. 地域子ども子育て支援事業について

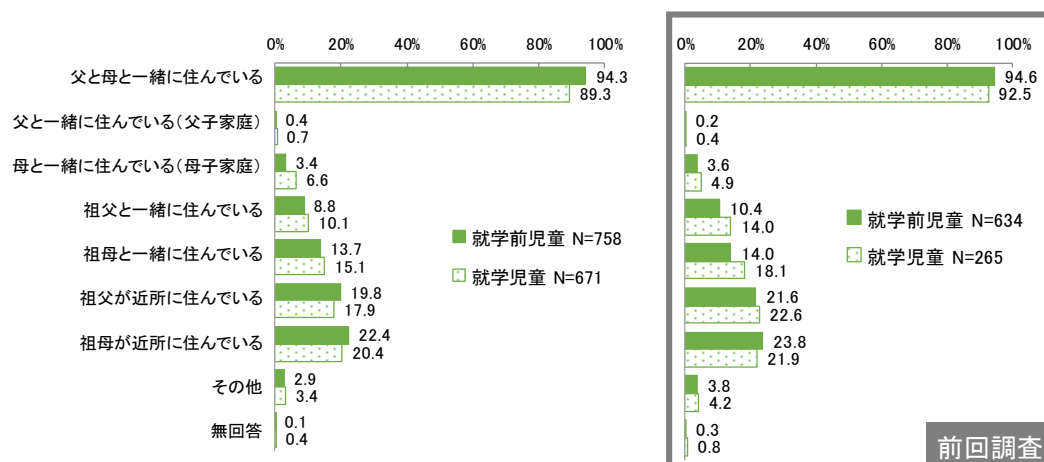
(1) 祖父母からの支援について

■ 子育てに関して相談できる相手について〔就学前児童：問9-1、就学児童：問9-1〕

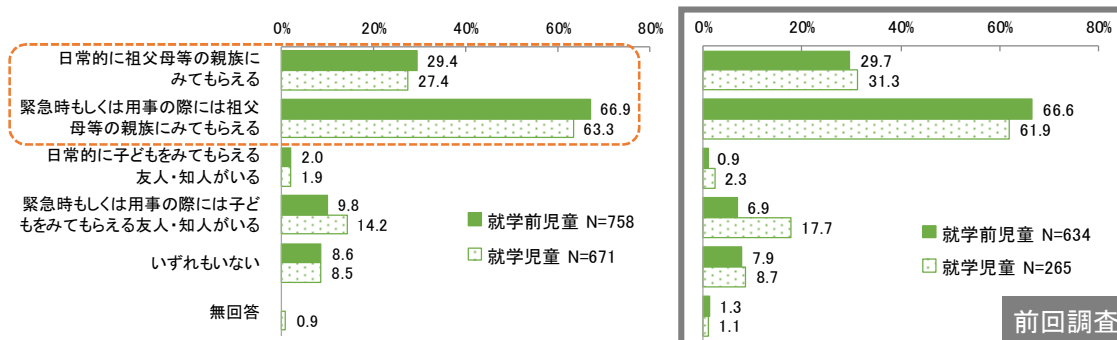


➤ 子育てに関して相談できる相手については、「祖父母等の親族」が多いことが分かります。

■ 父母・祖父母の同居状況、祖父母が近所に住んでいるかどうかの状況〔就学前児童：問6、就学児童：問6〕



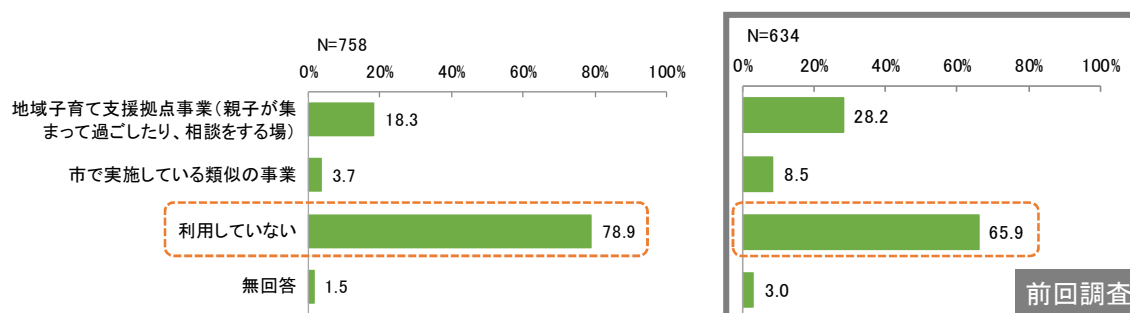
■ 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人等の有無〔就学前児童：問8、就学児童：問8〕



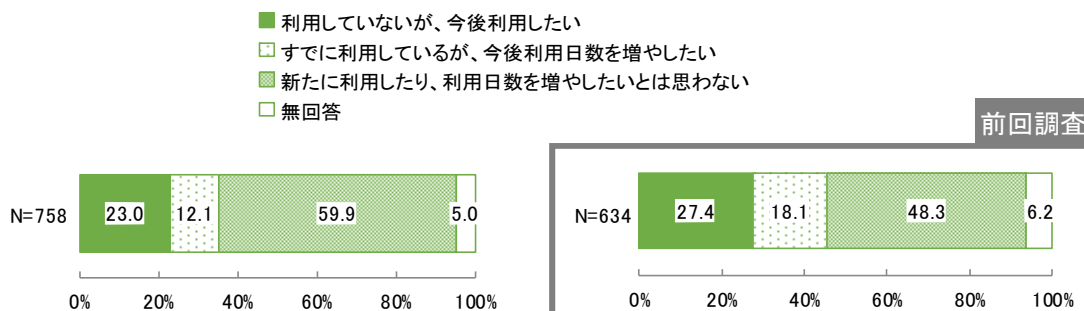
- 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人等の有無について、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が3割程度、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が6割程度と、祖父母等の親族に見てもらえる割合が多くなっています。

(2) 地域子ども子育て支援事業

■ 地域子育て支援拠点事業利用状況〔就学前児童：問16〕

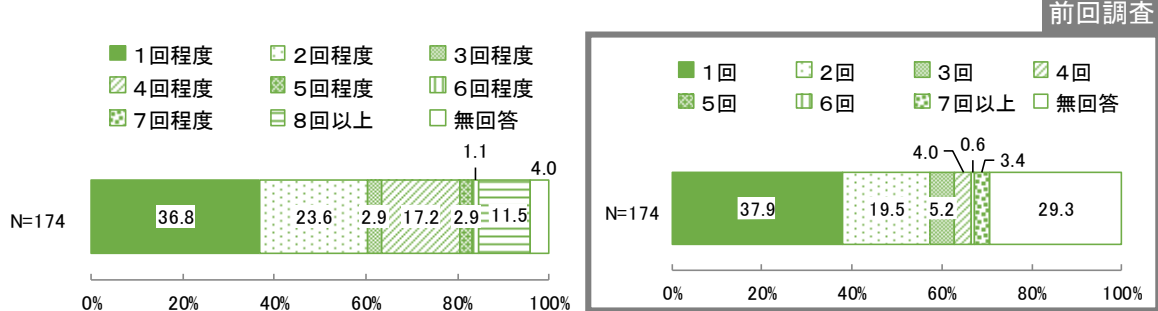


■ 今後利用したいか〔就学前児童：問17〕

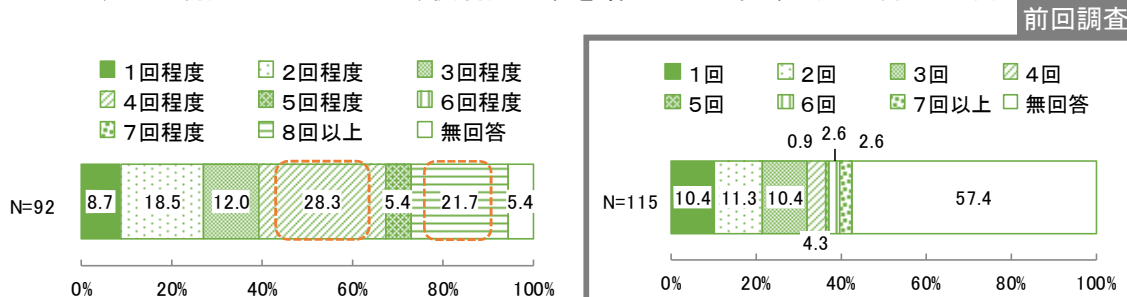


- 地域子育て支援拠点事業利用状況について、「利用していない」の割合が前回調査より多くなっています。

➔ 利用していない人が今後利用したい回数（1ヶ月当たり）



➔ すでに利用している人が今後利用日数を増やしたい回数（1ヶ月当たり）



➤ すでに利用している人が今後利用日数を増やしたい回数について、1ヶ月あたり「4回程度」「8回以上」と回答する方の割合が多く、更に利用日数を増やしたいという意向がうかがえます。

- ✓ 祖父母からの支援の有無は、子育てのしやすさに大きな影響があると思われます。
- ✓ 近居・同居をしていない家族のため、地域や公共による子育て支援を推進していく必要があります。